

**令和元年度実施  
選択的評価事項に係る評価  
評価報告書**

**和歌山工業高等専門学校**

令和2年3月

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構



## 目 次

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施した選択的評価事項に係る評価について . . . . .	i
I 選択的評価事項に係る評価結果 . . . . .	1
II 選択的評価事項ごとの評価 . . . . .	2
選択的評価事項A 研究活動の状況 . . . . .	2
選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況 . . . . .	4
<参 考> . . . . .	7
i 現況及び特徴（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載） . . . . .	9
ii 目的（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載） . . . . .	11



## 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施した選択的評価事項に係る評価について

### 1 評価の目的

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構（以下「機構」という。）の実施する認証評価は、高等専門学校の正規課程における教育活動を中心として高等専門学校の教育研究活動等の総合的な状況の評価するものですが、高等専門学校にとって研究活動は、教育活動とともに主要な活動の一つであり、さらに高等専門学校は、社会の一員として、地域社会、産業界と連携・交流を図るなど、教育、研究の両面にわたって知的資産を社会に還元することが求められており、実際にそのような活動が広く行われています。

そこで機構では、「評価結果を高等専門学校にフィードバックすることにより、高等専門学校の教育研究活動等の改善・向上に役立てること」、「高等専門学校の教育研究活動等の状況を社会に示すことにより、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと」という評価の目的に鑑み、各高等専門学校の個性の伸長に資するよう、高等専門学校評価基準とは別に、高等専門学校の多様な活動状況の評価するため、「研究活動の状況」（選択的評価事項A）と「地域貢献活動等の状況」（選択的評価事項B）の二つの選択的評価事項を設定し、高等専門学校の求めに応じて、これらの事項に関わる活動状況について評価を実施しました。

### 2 評価のスケジュール

機構は、国・公・私立高等専門学校の関係者に対し、高等専門学校機関別認証評価の仕組み、評価方法等についての説明会、自己評価書の作成方法等について研修を実施した上で、高等専門学校からの申請を受け付け、自己評価書の提出を受けた後、評価を開始しました。

自己評価書提出後の評価は、次のとおり実施しました。

元年7月	書面調査の実施
8月	運営小委員会（注1）の開催（各評価部会間の横断的な事項の調整） 評価部会（注2）の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定）
9月～11月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象高等専門学校の状況を調査）
12月	運営小委員会、評価部会の開催（評価結果（原案）の作成）
2年1月	評価委員会（注3）の開催（評価結果（案）の取りまとめ） 評価結果（案）を対象高等専門学校に通知
3月	評価委員会の開催（評価結果の確定）

（注1）運営小委員会・・・高等専門学校機関別認証評価委員会運営小委員会

（注2）評価部会・・・高等専門学校機関別認証評価委員会評価部会

（注3）評価委員会・・・高等専門学校機関別認証評価委員会

### 3 高等専門学校機関別認証評価委員会委員及び専門委員（令和2年3月現在）

#### （1）高等専門学校機関別認証評価委員会

揚村 洋一郎	前 東海大学附属大阪仰星高等学校・中等部 校長
荒金 善裕	前 東京都立産業技術高等専門学校長
有信 睦弘	東京大学 大学執行役・副学長
大島 まり	東京大学教授
鎌土 重晴	長岡技術科学大学理事・副学長
萱島 信子	国際協力機構理事
菊池 和朗	大学改革支援・学位授与機構特任教授
京谷 美代子	前 株式会社FUJITSU ユニバーシティエグゼクティブプランナ
黒田 孝春	大学改革支援・学位授与機構客員教授
田中 英一	東海職業能力開発大学校 校長・名古屋大学名誉教授
寺嶋 一彦	豊橋技術科学大学理事・副学長
永澤 茂	長岡技術科学大学教授
○長島 重夫	元 株式会社日立製作所教育企画部シニアコンサルタント
中野 裕美	豊橋技術科学大学副学長
新田 保次	元 鈴鹿工業高等専門学校長
廣畠 康裕	大学改革支援・学位授与機構特任教授
光田 好孝	東京大学教授
◎武藤 睦治	長岡技術科学大学名誉教授
村田 圭治	近畿大学工業高等専門学校長
森野 数博	前 呉工業高等専門学校長

※ ◎は委員長、○は副委員長

#### （2）高等専門学校機関別認証評価委員会運営小委員会

黒田 孝春	大学改革支援・学位授与機構客員教授
○田中 英一	東海職業能力開発大学校 校長・名古屋大学名誉教授
新田 保次	元 鈴鹿工業高等専門学校長
廣畠 康裕	大学改革支援・学位授与機構特任教授
光田 好孝	東京大学教授
◎武藤 睦治	長岡技術科学大学名誉教授
森野 数博	前 呉工業高等専門学校長

※ ◎は主査、○は副主査

## (3) 高等専門学校機関別認証評価委員会評価部会

## (第1部会)

鎌 土 重 晴	長岡技術科学大学理事・副学長
京 谷 美代子	前 株式会社FUJITSU ユニバーシティエグゼクティブプランナ
◎田 中 英 一	東海職業能力開発大学校 校長・名古屋大学名誉教授
寺 嶋 一 彦	豊橋技術科学大学理事・副学長
廣 畠 康 裕	大学改革支援・学位授与機構特任教授
○森 野 数 博	前 呉工業高等専門学校長
江 口 忠 臣	明石工業高等専門学校教授
小 澤 健 志	木更津工業高等専門学校教授
辻 豊	久留米工業高等専門学校教授
西 野 精 一	阿南工業高等専門学校教授
楡 井 雅 巳	長野工業高等専門学校教授
藤 木 なほみ	仙台高等専門学校嘱託教授

※ ◎は部会長、○は副部会長

## (第2部会)

萱 島 信 子	国際協力機構理事
菊 池 和 朗	大学改革支援・学位授与機構特任教授
黒 田 孝 春	大学改革支援・学位授与機構客員教授
永 澤 茂	長岡技術科学大学教授
中 野 裕 美	豊橋技術科学大学副学長
○新 田 保 次	元 鈴鹿工業高等専門学校長
○光 田 好 孝	東京大学教授
◎武 藤 睦 治	長岡技術科学大学名誉教授
安 東 至	秋田工業高等専門学校教授
小 山 善 文	熊本高等専門学校教授
川 村 春 美	サレジオ工業高等専門学校准教授
齊 藤 公 博	近畿大学工業高等専門学校教授
戸 嶋 茂 郎	鶴岡工業高等専門学校教授
野 本 敏 生	大島商船高等専門学校教授
道 平 雅 一	神戸市立工業高等専門学校教授

※ ◎は部会長、○は副部会長

#### 4 本評価報告書の内容

##### (1) 「Ⅰ 選択的評価事項に係る評価結果」

「Ⅰ 選択的評価事項に係る評価結果」では、選択的評価事項A及び選択的評価事項Bについて、対象高等専門学校が自ら定めた各評価事項に関する目的の達成状況について記述しています。

また、その目的に照らして、「優れた点」、「改善を要する点」がある場合には、それらの中から主なものを抽出し、上記結果と併せて記述しています。

##### (2) 「Ⅱ 選択的評価事項ごとの評価」

「Ⅱ 選択的評価事項ごとの評価」では、対象高等専門学校が自ら定めた各評価事項に関する目的の達成状況等を以下の4段階で示す「評価結果」及び、その「評価結果の根拠・理由」を記述しています。加えて、取組が優れていると判断される場合や、改善の必要が認められる場合には、それらを「優れた点」及び「改善を要する点」として記述しています。

＜選択的評価事項の評価結果を示す記述＞

- ・ 目的の達成状況が非常に優れている。
- ・ 目的の達成状況が良好である。
- ・ 目的の達成状況がおおむね良好である。
- ・ 目的の達成状況が不十分である。

(※ 評価結果の確定前に対象高等専門学校に通知した評価結果(案)の内容等に対し、意見の申立てがあった場合には、「Ⅲ 意見の申立て及びその対応」として、当該申立ての内容を転載するとともに、その対応を記述することとしています。)

##### (3) 「参考」

「参考」では、対象高等専門学校から提出された自己評価書に記載されている「i 現況及び特徴」、「ii 目的」を転載しています。

#### 5 本評価報告書の公表

本報告書は、対象高等専門学校及びその設置者に提供します。また、対象高等専門学校全ての評価結果を取りまとめ、「令和元年度選択的評価事項に係る評価実施結果報告」として、ウェブサイト(<https://www.niad.ac.jp/>)への掲載等により、広く社会に公表します。



## I 選択的評価事項に係る評価結果

和歌山工業高等専門学校は、大学改革支援・学位授与機構が定める「選択的評価事項A 研究活動の状況」において、目的の達成状況がおおむね良好である。

選択的評価事項Aにおける主な改善を要する点として、次のことが挙げられる。

- 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を学校として明確に定めているとはいえない。

和歌山工業高等専門学校は、大学改革支援・学位授与機構が定める「選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況」において、目的の達成状況がおおむね良好である。

選択的評価事項Bにおける主な優れた点として、次のことが挙げられる。

- 当校が運営の中核を担い、全日本小中学生ロボット選手権、きのくにロボットコンテスト、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテストで優秀な成績を収めたチームのロボットや研究機関の最先端ロボットのデモンストレーションを総合的に実施する「きのくにロボットフェスティバル」を平成30年度までに12回開催している。

選択的評価事項Bにおける主な改善を要する点として、次のことが挙げられる。

- 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を学校として明確に定めているとはいえない。

## II 選択的評価事項ごとの評価

選択的評価事項A 研究活動の状況
<p>評価の視点</p> <p>A-1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。</p>
<p>観点</p> <p>A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p> <p>A-1-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。</p> <p>A-1-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。</p> <p>A-1-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p>

### 【評価結果】

目的の達成状況がおおむね良好である。

#### (評価結果の根拠・理由)

##### 評価の視点A-1

研究活動に関する目的、基本方針、目標等が、学校として明確に定められているとはいえないものの、国立高等専門学校機構の第4期中期目標の「各国立高等専門学校が立地している地域の特性を踏まえた産学連携を活性化させ、地域課題の解決に資する研究を推進するとともに、国立高等専門学校における共同研究などの成功事例等を地域社会に還元し、広く社会に公開する。地域共同テクノセンター等を活用して、地域を中心とする産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究への積極的な取組を促進するとともに、その成果の知的資産化に努める。」に基づき、研究活動を行うこととされている。

研究活動の実施体制及び支援体制として、地域共同テクノセンター、知的財産評価委員会、遺伝子組換え実験安全委員会、人を対象とする研究倫理委員会を整備している。事務体制は、総務課総務・企画係が中心となり、研究支援学術及び研究協力に関する業務、科学研究費助成事業（以下「科研費」という。）、共同研究・受託研究の支援を行っている。これらの体制の下、研究活動を行っている。

また、研究活動の実績は、『和歌山工業高等専門学校年報』、『地域共同テクノセンター広報（研究シーズ集）』等で公開されている。

研究活動の成果として、平成26～30年度の外部資金の実績（合計件数・金額）は、科研費は72件90,604.6千円、共同研究は52件20,084.4千円、受託研究は15件9,357.4千円となっている。平成29年度における研究業績等は、著書等5件、学術論文55件、技術相談36件等となっている。

研究活動等の実施状況から、問題点を把握し、それを改善に結び付けるため、「和歌山工業高等専門学校の自己点検・評価等に関する規則」を整備し、研究活動に関する自己評価を行うこととしている。

平成29年度に、教育研究の共同実施と教員、学生等の交流、練習船「鳥羽丸」を活用した海洋の学術研究調査、災害時の相互協力のための包括協定を鳥羽商船高等専門学校と締結し、和歌山県の海洋産業の更なる振興のため、平成30年度から「海洋プロジェクト」として海洋研究、教育、地域貢献活動を推進している。また、令和元年度に「海洋研究ユニット」を発足し、積極的な活動を計画している。

これらのことから、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の成果が得られていると判断する。

以上の内容を総合し、「目的の達成状況がおおむね良好である。」と判断する。

**【改善を要する点】**

- 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を学校として明確に定めているとはいえない。

<p>選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況</p>
<p>評価の視点</p> <p>B-1 高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。</p>
<p>観点</p> <p>B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p> <p>B-1-② 地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。</p> <p>B-1-③ 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。</p> <p>B-1-④ 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p>

**【評価結果】**

目的の達成状況がおおむね良好である。

(評価結果の根拠・理由)

評価の視点B-1

地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が、学校として明確に定められているとはいえないものの、当校の教育理念では、地域社会の特色を生かしつつ、地球環境に配慮した新技術の開発に貢献することとしている。

また、国立高等専門学校機構の第4期中期目標の「各国立高等専門学校が立地している地域の特性を踏まえた産学連携を活性化させ、地域課題の解決に資する研究を推進するとともに、国立高等専門学校における共同研究などの成功事例等を地域社会に還元し、広く社会に公開する。地域共同テクノセンター等を活用して、地域を中心とする産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究への積極的な取組を促進するとともに、その成果の知的資産化に努める。」に基づき、地域貢献活動等を行うこととされている。

地域貢献活動等の取組として、なるほど体験科学教室、公開講座、出前授業、ロボット教育センターでの活動(きのくにロボットフェスティバルへの支援)等を計画的に実施している。地域連携の取組や学生活動、並びに海洋教育・研究プロジェクトの活動成果等の情報を、ウェブサイト等で社会に発信している。平成30年度における開催回数は、公開講座が28回、出前授業が24回となっている。

和歌山大学が中心となっている「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)「わかやまの未来を切り拓く若者を育む“紀の国大学”の構築」」に当校も参画しており、当該事業に認定された準学士課程2年次の「わかやま学」では、講義形式の授業のほかに、和歌山県内の産業を学ぶ一環として企業等の実地見学が組み込まれており、フィールドワーク後にクラスごとと学科全体のプレゼンテーションの時間を設けている。和歌山地域の文化の特色と和歌山の文化や産業の現在を学び、伝統と問題点を踏まえた上で、あるべき未来像として新たな「わかやま」を提案する授業科目により、学生にとって魅力的な働場の創出・開拓と、地域が求める人材の育成を行う事業を推進している。

地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等については、平成30年度における小学生を対象としたおもしろ体験科学教室のアンケート結果では、「参加して、今日やったようなことを好きになりましたか」、

「今日は楽しかったですか」等の興味喚起や楽しさの実感に関する項目において、参加者全員から肯定的な回答を得ている。

地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくため、きのくにロボットフェスティバル及びロボットの関係する公開講座、出前授業はロボット教育センターが担当し、これ以外の公開講座、出前実験、技術相談は、地域共同テクノセンターが担当し、問題点把握及び改善を図る体制を整備している。

地域貢献活動等の実施状況・成果から、問題点を把握する取組として、当校と和歌山県をはじめとする県内各機関と連携し、青少年のものづくりに対する理解を深め、日本のものづくりと科学技術の発展を目指す、きのくにロボットフェスティバルでは、事前準備から当日の運営までの課題抽出を行い、その対策を提示し、次年度に向けて改善を図る取組を行っている。

当校が運営の中核を担い、小中学校生を対象とした全日本小中学生ロボット選手権、高等学校を対象としたきのくにロボットコンテスト、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテストで優秀な成績を収めたチームのロボットや研究機関や企業等の最先端ロボットのデモンストレーションを総合的に実施するきのくにロボットフェスティバルを平成30年度までに12回開催している。

当校は、防災に関する地域貢献を幅広く行っている。各学科の防災に関する分野の研究を積極的に実施するとともに、地域自治体等の要請に応じて講演会による情報提供や防災関係の協議会等へ参画している。また、避難所指定校として、避難所開設の手順検討や、災害時トイレ利用を考慮した廃水処理場の改修を実施し、災害時に地域に貢献できるような体制の検討を続けている。また、県内メディアと災害時の情報共有の連絡・連携を行うための協定締結を行っている。

当校は、和歌山県警察からの依頼に基づき、当校コンピュータ部がサイバーボランティアとして、(1) 犯罪被害防止のための教育活動、(2) 広報啓発活動、(3) サイバー空間の浄化活動(サイバーパトロール)、(4) 悪質な利用者への指導、注意等の活動を実施している。和歌山県警察と連携し、犯罪被害を防止するための講習、インターネット利用者の規律意識向上のため、街頭での防犯キャンペーンやイベント等、サイバーパトロールを通じ、発見した違法・有害情報の警察又はインターネット・ホットラインセンターへの通報、及びインターネット上に不適切な書き込み等に対する書き込み者への、電子メール等での指導、注意を行っている。

これらのことから、地域貢献活動が行われ、活動の成果が認められていると判断する。

以上の内容を総合し、「目的の達成状況がおおむね良好である。」と判断する。

#### 【優れた点】

- 和歌山大学が中心となっている「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)「わかやまの未来を切り拓く若者を育む“紀の国大学”の構築」に当校も参画しており、当該事業に認定された授業科目により、学生にとって魅力的な働く場の創出・開拓と、地域が求める人材の育成を行う事業を推進している。
- 当校が運営の中核を担い、全日本小中学生ロボット選手権、きのくにロボットコンテスト、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテストで優秀な成績を収めたチームのロボットや研究機関の最先端ロボットのデモンストレーションを総合的に実施する「きのくにロボットフェスティバル」を平成30年度までに12回開催している。

**【改善を要する点】**

- 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を学校として明確に定めているとはいえない。

## < 参 考 >





## i 現況及び特徴（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）

### 1 現況

(1) 高等専門学校名 和歌山工業高等専門学校

(2) 所在地 和歌山県御坊市名田町野島77

(3) 学科等の構成

進学士課程：知能機械工学科、電気情報工学科、生物応用化学科（物質工学科）、環境都市工学科

専攻科課程：メカトロニクス工学専攻、エコシステム工学専攻

(4) 認証評価以外の第三者評価等の状況

特例適用専攻科（専攻名：メカトロニクス工学専攻、エコシステム工学専攻）

JABEE認定プログラム（専攻名：メカトロニクス工学専攻、エコシステム工学専攻）

(5) 学生数及び教員数（令和元年5月1日現在）

学生数：864人 教員数：専任教員61人 助手数：0人

### 2 特徴

和歌山工業高等専門学校（以下本校と言う）は実践的技術者養成のための高等教育機関として昭和39年（1964年）4月に国立高専の第3期校として開設された。設立当初の機械工学科、電気工学科、工業化学科の3学科から、昭和44年に土木工学科を設置し、4学科構成となった。その後、科学技術の進展に合わせて改組等を行い、知能機械工学科、電気情報工学科、生物応用化学科、環境都市工学科の現在の学科構成になった。また、平成14年4月に更に高度な専門的知識と技術を教授する専攻科（メカトロニクス工学専攻とエコシステム工学専攻）を設置した。

教育理念として「本校は、5年間の一貫教育を通じて、エンジニアとしての素養を身につける基礎教育と、実践を重視した専門教育を効果的に行うことにより、工学を社会の繁栄と環境との調和に生かすための創造力と問題解決能力を身につけ、豊かな人間性と国際性を備えた人材の育成を目指します。とりわけ自然環境に恵まれた和歌山県中南部に位置する本校は、地域社会の特色を生かしつつ、地球環境に配慮した新技術の開発に貢献することにより、新たな課題に挑戦します。こうした環境と地域連携を考慮した教育・研究活動が、国際社会へもアピールできるよう努力を重ねます。」を掲げている。この理念の下に教育活動を進め、「人材養成」、「地域貢献」、「国際化」をキーワードに活動を行っている。

人材養成では、アドミッション・ポリシーに沿って入学者を受け入れ、カリキュラム・ポリシーに沿った教育を実施し、ディプロマ・ポリシーに従って卒業を認定している。本校卒業生は、卒業後直ぐか、専攻科や大学に進んだ後かの違いがあるが、ほぼ全員が企業等の技術者となっている。このことは本校に入学する事が、将来の職業を決めることを意味しており、このことを社会に広く周知する必要がある。そのため、本校ではアドミッション・ポリシーとして広く社会に公表し、このポリシーに基づいた体験実習入試、学校長推薦入試、学力入試を実施している。さらに、毎年大阪府下および和歌山県下の中学校を訪問して本校ポリシーを説明し、本校の趣旨に沿った学生を集める努力を続けている。

教育内容は5年間の技術者教育を考慮した課程を設定し、その中で取り扱う内容は、モデルコアカリキュラムの内容を網羅した上で、技術者として必要な事柄に重点を置いた教育を行っている。さらに、これらの教育を行う教員は61名中48名が博士号取得者であり、13名が企業経験を有する等、十分な能力と資質を備えている。また、設立間もない昭和44年からインターンシップを導入し、4学年学生ほぼ全員を夏期休暇中にインターンシップに参加させ、社会経験を通じて、勉学への動機付けや社会人としての素養を身につけられるように配慮している。卒業生に対する企業の評価は極めて高く、例年卒業生の約60%を占める就職希望者数の約20倍の求人がある。クラス担任、学科主任や進路対策委員会によるきめ細かなフォローアップとも相まって、卒業生の約

## 和歌山工業高等専門学校

40%を占める進学希望者を含む卒業生のほぼ全員が、毎年卒業までに進路を決定している。専攻科においても、より高度な専門的技術とコミュニケーション能力を身につけた修了生として企業や大学院等から高い評価を得ており、求人倍率は就職希望者の約80倍以上になっている。

本校は全国有数の規模の学生寮を有しており、毎年本校学生の7割に相当する定員一杯の590名前後の学生が生活している。低学年に全寮制を敷き、共同生活の体験を義務づけることにより、技術者として必要な協調性等の涵養に資している。この大規模寮を、寮務主事を中心とする学寮委員会と学生課寮務係、および寮生で構成する指導寮生委員会と寮生会で運営している。学生寮では集団生活はもとより学生の自主性を引き出すボランティア活動や社会人としてのマナー教育等、種々の施策を実行し、現在まで全国高専の模範的な寮として毎年のように他高専関係者の訪問を受けている。

国際性を備えた人材の育成を図る施策の一つとして、上海電機学院（中華人民共和国）と交流協定を締結し、2004年より年1回、10数名の学生が約2週間の短期留学を相互に行っている。さらに、インドネシアのスラバヤ工科大学等の3大学とも学術交流協定を締結し、学生や教員の交流を行っている。また、外国人留学生を本科3年生に受入れ（2019年5月現在9名）、日本人学生とともに卒業目指して勉学に励んでいる。

本校の位置する和歌山県は高等教育機関が少なく、県民の本校への期待も大きい。この期待に応えるべく産官学技術交流会を設立して地域産業との連携を図っている。平成27年度には文部科学省から「地（知）の拠点事業」に採択され、「わかやまを知る若手エンジニアを育成し地域の未来を切り拓くー「地」の「知」の拠点としての和歌山高専ー」に取組み、地域についての深い知識を持った人材の育成を推進している。地域共同テクノセンターやロボット教育センター等を中心に小中学生を対象とした公開講座や出前授業等を多数実施している。また、地域と共に「きのくにロボットフェスティバル」を毎年実施し、小中学生に夢を与える活動を続けている。図書館を地域に開放し、多数の地域住民が利用しており、地域の情報発信基地としての役割を果たしている。さらに、近い将来予想される東南海地震に対して津波発生時のハザードマップを作成し、地域住民への説明会を開催するなど、地元自治体と一体となった防災・減災活動を続けている。また、文部科学省の委託を受け、学校施設の防災力強化プロジェクト「ソフト・ハード一体となった学校防災」に取組み、地元の幼稚園・小学校・中学校と連携して防災ネットワーク体制を構築している。

## ii 目的（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）

### 学校の目的

和歌山工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（平成18年法律第120号）の精神にのっとり、及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的とする。（和歌山工業高等専門学校学則第1条）

### 準学士課程

#### 知能機械工学科

幅広い産業における機器やシステムの設計、開発、研究、保守、操業等の業務において、創造的かつ主体的に取り組むための基礎技術や制御・知能化技術を含めた総合力を身につけ、日々進歩する科学技術を推進できる基本的学識と知的好奇心を備えた機械技術者の養成

#### 電気情報工学科

私たちの豊かな生活を支え、社会、産業の発展に大きく寄与している電気・電子・情報・通信などの基礎技術を身につけ、日々進歩し続ける電気情報技術に柔軟に対応できる課題発見解決型の電気情報技術者の養成

#### 生物応用化学科（物質工学科）

人々の生活を支える様々な物質について、化学および生物工学に基づく基礎的理解と工学的センスを身につけ、ものづくりに誇りを持って地球環境保全の立場から人類に役立つ物質を実践的に創造できる化学・生物工学技術者の養成

#### 環境都市工学科

地震や津波に対する防災技術、地球温暖化問題に対する環境保全・自然との共生をはかる環境マネジメント技術、機能的で快適な街をつくる都市計画技術、橋梁など社会基盤の構造設計技術などを身につけ、グローバルデザイン能力に優れた創造的技術者の養成

（和歌山工業高等専門学校学則第7条の2）

### 専攻科課程

専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成するとともに、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを目的とする。

（和歌山工業高等専門学校学則第40条）

#### メカトロニクス工学専攻

機械工学、電気電子工学及び情報工学の知識を基礎に、持続可能な社会の形成に活かせる創造力、多面的に問題を発見し解決する能力、豊かな人間性と国際性を備え、メカトロニクスに関する研究開発能力に優れた技術者となりうる人材を養成する。

#### エコシステム工学専攻

応用化学、生物工学、環境工学、土木工学の知識を基礎に、持続可能な社会の形成に活かせる創造力、多面的に問題を発見し解決する能力、豊かな人間性と国際性を備え、エコシステムに関する研究開発能力に優れた技術者となりうる人材を養成する。

（和歌山工業高等専門学校学則第42条の2）